



FeliSafe SW

ユーザーズマニュアル



Ver2.0 対応版

Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
FeliSafe®は、株式会社ユタカ電機製作所の登録商標です。

使用上のご注意

■本ソフトウェアについて

- 1.本書および本ソフトウェアは、日本国内において株式会社ユタカ電機製作所が著作権を保有しています。
- 2.本書および本ソフトウェアの内容の一部あるいは全部について複写、複製することは禁じられています。
- 3.本書または製品の内容につきましては、将来予告無しに変更することがあります。
- 4.製品の取り扱いにつきましては、取扱説明書などをよくお読みください。
- 5.製品の内容につきましては万全を期しておりますが、万一不可解な点や、誤り、お気づきのことがありましたら、御一報くださいますようお願いいたします。
- 6.運用の結果の影響については上記事項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。

免責事項について

当社製品の使用に起因する事故であっても、装置・接続機器・ソフトウェアの異常、故障に対する損害、その他二次的な被害を含むすべての損害の補償には応じかねます。

目次

1. はじめに	1
1.1. FeliSafe SW ご使用にあたって	1
2. FeliSafe SW について	3
2.1. FeliSafe SW の概要	3
2.2. FeliSafe SW のプログラム構造	3
2.2.1. サービスプログラム	3
2.2.2. モニタープログラム	3
2.3. FeliSafe VP のリモートシャットダウン機能	4
2.4. FeliSafe VP によるシャットダウン処理の概要	5
2.4.1. FeliSafe VP のシャットダウン処理の発生条件	5
2.4.2. 停電によるシャットダウン	5
2.4.3. スケジュール ON/OFF 設定によるシャットダウン	6
2.5. 動作環境	7
2.5.1. 動作確認OS	7
2.5.2. TCP/IP	7
2.5.3. 管理者権限	7
2.5.4. UPS	7
2.5.5 制限	7
2.6. FeliSafe SW のフォルダ構成	7
2.7. FeliSafe SW のWEB サイトについて	7
3. FeliSafe SW のインストール	8
3.1. インストールプログラムの実行	8
3.1.1. ソフトウェアのダウンロード	8
3.1.2. 既存バージョンがある場合	8
3.1.3. インストールプログラムの起動	8
3.1.4. インストールプログラムの実行	9
3.2. プログラムの削除（アンインストール）	11
4. ファイアウォールの設定	12
4.1. ファイアウォールの受信規則の作成	12
5. サービスプログラムの起動/停止/再起動方法	17
5.1. Windows の「サービス」から起動/停止/再起動する方法	17
5.2. 自動起動（スタートアップの種類）を確認/変更する方法	18
6. FeliSafe SW の説明	19
6.1. FeliSafe SW の起動、表示、終了	19
6.1.1. FeliSafe SW の起動	19
6.1.2. FeliSafe SW 設定画面の表示	19
6.1.3. FeliSafe SW の終了	20
6.2. FeliSafe SW の設定	21
6.2.1. 設定画面の説明と設定方法	21
7. コンピュータのシャットダウン動作について	24
7.1. FeliSafe SW によるコンピュータのシャットダウン	24
8. ご利用いただく際の注意点—必ずお読みください	24
8.1. UPS の電源供給に連動し、コンピュータを起動させるには	24
9. 付録	24
9.1. FeliSafe SW を「管理者として実行」する方法	24
9.2. UPS の出力開始でコンピュータを起動する方法	26

1. はじめに

1.1. FeliSafe SW ご使用にあたって

ソフトウェアをご使用になる前に、必ず「ソフトウェア使用許諾条件」をお読みください。
本条件に同意いただけない場合は、本ソフトウェアをご使用になれません。

• ソフトウェアの使用許諾条件

本ソフトウェアをインストールまたは使用する前に、本使用許諾条件（以下「本条件」といいます。）を必ずお読みください。

本ソフトウェアをインストールまたは使用した場合、お客様は本条件の内容に同意したものといたします。
株式会社ユタカ電機製作所（以下「弊社」といいます。）は、本条件に基づき、無償で提供されるソフトウェア（以下「許諾ソフトウェア」といいます。）を、日本国内で使用する非独占的な権利をお客様に許諾します。

1. 許諾ソフトウェアの定義

本条件において「許諾ソフトウェア」とは、弊社が提供するソフトウェア本体に加え、その更新版、修正版、改良版およびこれらに付随するマニュアルその他の関連資料のすべてを含みます。

2. 使用権の許諾

- (1) 弊社は、お客様に対し、許諾ソフトウェアを 1 台のコンピュータにおいて使用する、非独占的かつ譲渡不能の使用権を許諾します。
- (2) 本体の修理、交換または保守に伴う代替機においては、同一用途の範囲内で許諾ソフトウェアを使用することが出来ます。
- (3) お客様は、本条件に定める範囲を超えて許諾ソフトウェアを使用してはなりません。

3. 複製・改変等の制限

- (1) お客様は、バックアップの目的に限り、必要な範囲で許諾ソフトウェアを複製することができます。
- (2) お客様は、許諾ソフトウェアの複製物すべてに、著作権表示その他の権利表示を付すものとします。
- (3) 本条件で明示的に認められている場合を除き、許諾ソフトウェアの複製、改変、結合、第三者への提供その他の処分を行うことはできません。
- (4) お客様は、いかなる場合であっても許諾ソフトウェアとともに提供されたマニュアル等の関連資料を複製することはできません。

4. 権利帰属

許諾ソフトウェアに関する著作権その他の知的財産権は、すべて弊社または正当な権利を有する第三者に帰属し、本条件に基づきお客様に移転することはありません。

5. 譲渡等の禁止

お客様は、許諾ソフトウェアまたはその使用権を、第三者に再使用許諾、譲渡、移転または担保設定することはできません。

6. 逆コンパイル等の禁止

お客様は、許諾ソフトウェアについて、リバースエンジニアリング、逆コンパイルまたは逆アセンブルを行ってはなりません。

7. 仕様変更

弊社は、許諾ソフトウェアの安全性、信頼性の向上または軽微な機能改善を目的として、お客様への事前通知なく仕様を変更することがあります。

8. 保証および責任の制限

弊社は、許諾ソフトウェアに関していかなる保証も行いません。
許諾ソフトウェアに関し発生する問題はお客様の責任および費用負担をもって処理されるものとします。

9. 使用期間および終了

- (1)お客様は、いつでも許諾ソフトウェアの使用を終了することができます。
- (2)弊社は、お客様が本条件に違反した場合、許諾ソフトウェアの使用権の全部または一部を終了させることができます。
- (3)使用権終了後、お客様は許諾ソフトウェアおよびその複製物を速やかに破棄するものとします。

10. 輸出の制限

お客様はいかなる方法によっても許諾ソフトウェアおよびその複製物を日本国から輸出してはなりません。

11. 準拠法および管轄

本条件は日本法に準拠し、これに関して生じる紛争については、東京地方裁判所を専属的合意管轄裁判所とします。

2. FeliSafe SW について

2.1. FeliSafe SW の概要

FeliSafe SW は、ユタカ電機製作所製 UPS 監視ソフト FeliSafe VP のリモートシャットダウンを実行するソフトウェアです。

FeliSafe SW はネットワーク経由で FeliSafe VP からのシャットダウン通知を受信し、Windows システムをシャットダウンします。

2.2. FeliSafe SW のプログラム構造

FeliSafe SW はサービスプログラムとモニタープログラムで構成されています。

2.2.1. サービスプログラム

Windows が起動すると自動的に開始され、バックグラウンド（画面に表示されない状態）で動作し、FeliSafe VP からシャットダウン通知を待ちます。シャットダウン通知を受信すると Windows システムをシャットダウンします。

2.2.2. モニタープログラム

スタートメニューなどからユーザーが手動で起動するプログラムです。

リモートシャットダウンの設定を画面から確認、操作できます。

モニタープログラムを表示していない場合でも、サービスプログラムは停止しません。

そのため、モニタープログラムを表示していなくても、停電時にはサービスプログラムが自動的にシャットダウン処理を行います。

2.3. FeliSafe VP のリモートシャットダウン機能

ここでは、FeliSafe VP のリモートシャットダウン機能の概要を説明します。
設定方法については、<<FeliSafe VP のユーザーズマニュアル>>を参照してください。

【注意】

リモートシャットダウン機能は停電発生時の機能となり、スケジュール設定ではご利用になれません。

リモートシャットダウン動作に関係するコンピュータを以下のように定義します。

■プライマリ (FeliSafe VP)

UPS と USB または RS-232C で直接接続され、UPS を監視するコンピュータ。

FeliSafe VP をインストールします。

■セカンダリ (FeliSafe SW)

プライマリ側からのシャットダウン通知を受けてシャットダウンを行うコンピュータ。

FeliSafe SW をインストールします。

■FeliSafe VP について

FeliSafe VP は、Windows システム上で動作する、ユタカ電機製作所製 UPS 専用の監視ソフトウェアです。本ソフトウェアは、Windows のサービスプログラムとして、接続されている UPS を常時監視します。また、UPS の各種状態を表示および記録する機能を備えており、UPS の状態を動的に把握することができます。

停電などにより Windows を終了しなければならない状態になった場合には、FeliSafe VP がシャットダウン処理を実行します。詳細は、<<FeliSafe VP のユーザーズマニュアル>>を参照してください。

■リモートシャットダウンの構成概要

停電時のリモートシャットダウンは、セカンダリにインストールした FeliSafe SW が、プライマリの FeliSafe VP から送信されるシャットダウン通知を受信してシャットダウン処理を実行する仕組みです。

FeliSafe VP と FeliSafe SW の関係は、以下の図 2.3 のとおりです。

※イメージ図では電源線を省略しています。

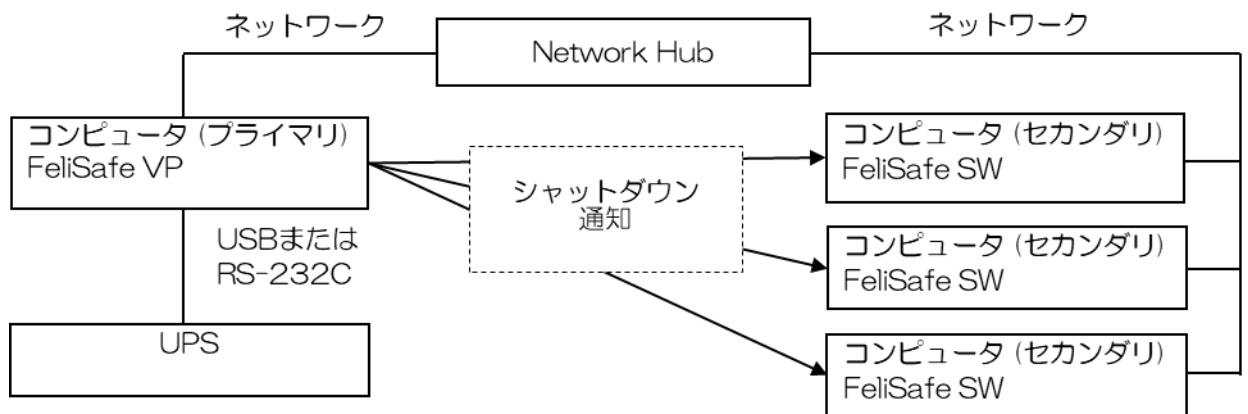


図 2.3. リモートシャットダウンの構成

■リモートシャットダウンの動作

- (1) UPS で停電が発生すると、プライマリの FeliSafe VP がこれを検知します。
- (2) FeliSafe VP に登録されたセカンダリに対して、ネットワーク経由でシャットダウン通知を送信します。
- (3) セカンダリの FeliSafe SW はシャットダウン通知を受信すると、自動的にシャットダウン処理を行います。

■FeliSafe VP / FeliSafe SW の設定

- FeliSafe VP (プライマリ側)
セカンダリ側の IP アドレスを登録します。
通信に使用するパスワードを設定します。
- FeliSafe SW (セカンダリ側)
プライマリ側の IP アドレスを登録します。
FeliSafe VP で入力した同じパスワードを設定します。

これらの設定が一致した場合のみ、FeliSafe SW はシャットダウン処理を行います。

■通知設定

- FeliSafe VP では、「シャットダウン通知をする / しない」を設定可能
- FeliSafe SW では、「シャットダウンを実行する / しない」を設定可能

※ 「FeliSafe VP」から「FeliSafe SW」をリモートでシャットダウンを行う場合、中継する Hub も UPS によりバックアップしてください。

2.4. FeliSafe VP によるシャットダウン処理の概要

FeliSafe VP およびリモートシャットダウンソフト FeliSafe SW を含めたシャットダウン処理の概要を説明します。

本章では、FeliSafe VP をインストールしたコンピュータを「プライマリ」、FeliSafe SW をインストールしたコンピュータを「セカンダリ」と呼びます。（プライマリとセカンダリの詳細は「2.3. FeliSafe VP のリモートシャットダウン機能」を参照してください。）

2.4.1. FeliSafe VP のシャットダウン処理の発生条件

FeliSafe VP のシャットダウン処理が発生する条件は、下記の通りです。

- ① 停電によるシャットダウン
- ② スケジュール設定によるシャットダウン

【注意】 スケジュール設定ではリモートシャットダウン（FeliSafe SW）は機能しません。

2.4.2. 停電によるシャットダウン

停電が継続した場合、設定された各ディレイ（ディレイ 1～4）に従ってシャットダウンを実行します。ディレイ 1 が経過するとプライマリ（FeliSafe VP）はセカンダリ（FeliSafe SW）にシャットダウン通知を送信しシャットダウンを開始します。その後、ディレイ 3 が経過すると UPS は出力を停止します。ファイル実行を設定した場合は、ディレイ 1 の待機時間からさかのぼったディレイ 2 の時間でファイルを実行します。

停電時のシャットダウン動作のタイムチャートを、図 2.4 に示します。

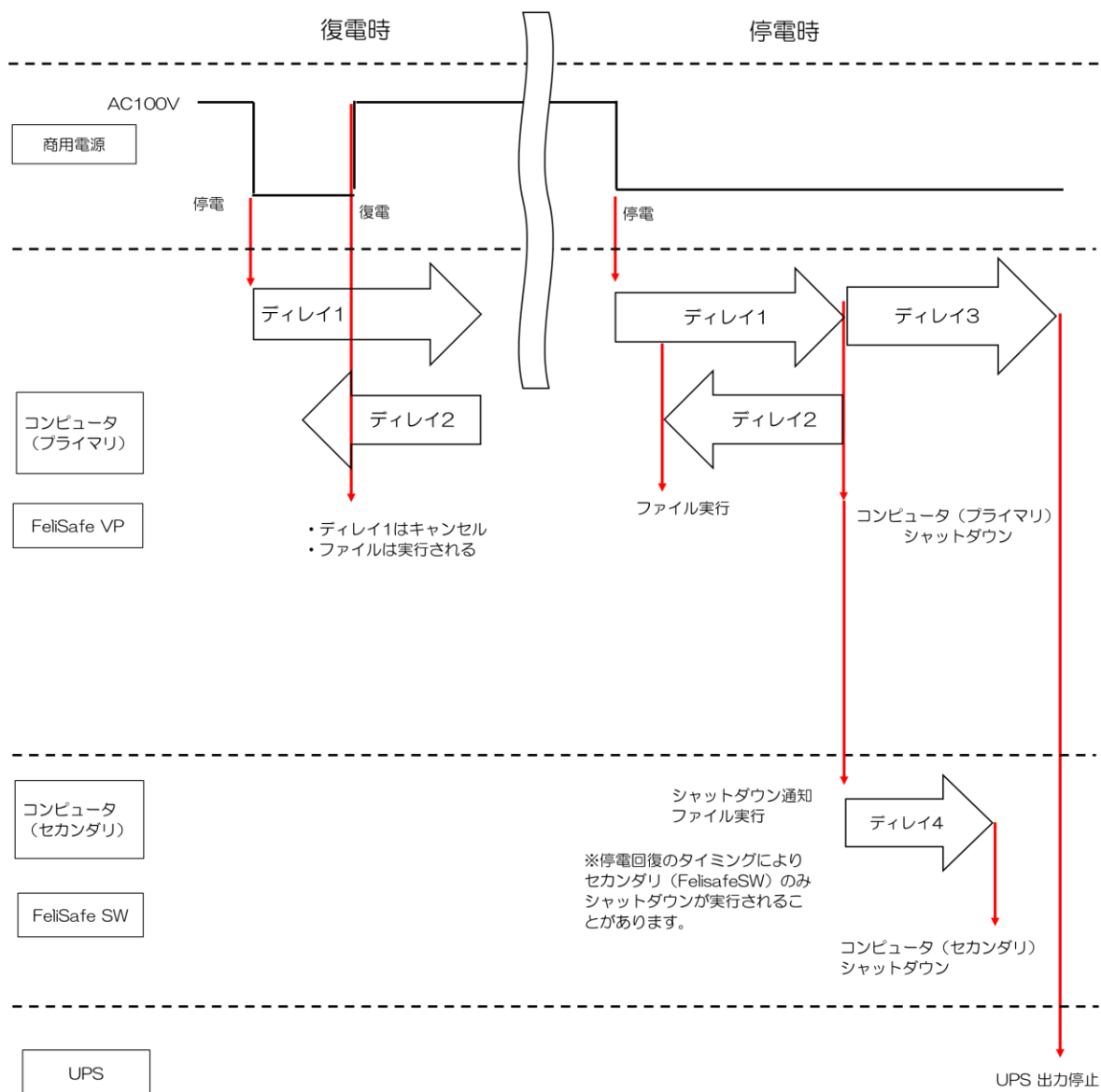


図 2.4. 停電時のシャットダウン動作のタイムチャート

■「図 2.4」のタイムチャートと各ディレイの説明

- ディレイ 1：電源復旧待機時間
停電発生から電源復旧を待機する時間です。
「ディレイ 1」の間に電源復旧した場合、FeliSafe VP はシャットダウン処理を中止し、通常運転に戻ります。
「ディレイ 1」の間に電源復旧しない場合、FeliSafe VP はシャットダウン処理に入ります。
また、リモートシャットダウンが設定されている場合は、セカンダリ（FeliSafe SW）に対してシャットダウン通知を送信します。
- ディレイ 2：OS シャットダウン開始前のファイル実行時間
ファイル実行を設定した場合は、ディレイ 1 の待機時間からさかのぼったディレイ 2 の時間でファイルを実行します。
- ディレイ 3：停電シャットダウン開始後のUPS停止待機時間
ディレイ 1 終了後、UPS が出力を停止するまでの待機時間です。
- ディレイ 4：OS シャットダウン開始前のファイル実行時間（セカンダリ（FeliSafe SW）の設定）
FeliSafe SW が FeliSafe VP よりシャットダウン通知を受信し、
FeliSafe SW がシャットダウンする前に設定されたファイルを実行するための待機時間です。

■詳細説明および設定方法は、《FeliSafe VP ユーザーズマニュアルの 5.4.2.1. シャットダウン設定》を参照してください。

2.4.3. スケジュール ON/OFF 設定によるシャットダウン

この機能は、FeliSafe SW では対応しておりません。

2.5. 動作環境

2.5.1. 動作確認OS

Microsoft Windows 日本語版

- Windows 11
- Windows Server 2016、2019、2022、2025
- Windows Storage Server 2016

【注意】

- 組み込み用 Windows（Windows Embedded 等）はサポートしておりません。OS の Core モードはサポートしておりません。
- Windows の日本語版のみ対応しております。日本語版以外では正常に動作しません。
- 最新の情報は、当社ホームページをご覧ください。URL は予告無く変更することがあります。
https://www.yutakadenki.jp/support/downloadfile/FelisafeVP/Felisafe_VP.html

2.5.2. TCP/IP

ネットワーク管理を行うには、TCP/IP プロトコルが必要です。

2.5.3. 管理者権限

管理者権限が必要です。

2.5.4. UPS

FeliSafe VP 対応製品

- UPS-LT シリーズ

2.5.5 制限

1 台のコンピュータに弊社の他の監視ソフトを同時にインストールしないでください。

デバイスなどのリソースの競合により正常に動作しないことがあります。

FeliSafe SW を使用する場合、既にインストールされている「FeliSafe Pro」など、他の監視ソフトをアンインストールした後に、FeliSafe SW をインストールしてください。

2.6. FeliSafe SW のフォルダ構成

FeliSafe SW をインストールするとデフォルトでは次のフォルダにプログラムやデータを保存します。

- プログラムフォルダ
C:¥Program Files (x86) ¥FeliSafeSW

2.7. FeliSafe SW の WEB サイトについて

FeliSafe SW の技術情報等のサポートページは

https://www.yutakadenki.jp/support/downloadfile/FelisafeVP/Felisafe_VP.html
となっております。

最新の情報や新しいバージョン等を掲載しております。

3. FeliSafe SW のインストール

3.1. インストールプログラムの実行

3.1.1. ソフトウェアのダウンロード

以下の URL より FeliSafe SW をダウンロードしてください。

https://www.yutakadenki.jp/support/downloadfile/FelisafeVP/Felisafe_VP.html

ソフト名 : FeliSafeSW_Ver.X.X.exe

3.1.2. 既存バージョンがある場合

現在使用中の FeliSafe SW がある場合は、古いバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンをインストールしてください。

インストール後は、FeliSafe SW の設定を再度行ってください。

3.1.3. インストールプログラムの起動

ダウンロードした「FeliSafe SW_Ver.X.X.exe」を実行してください。

インストールプログラムの起動時に、Windows のユーザーアカウント制御のメッセージが表示されることがあります。その場合は、「はい」をクリックしてください。



3.1.4. インストールプログラムの実行

① インストールプログラムの実行

インストールプログラムを実行するとインストール画面が表示されます。
「次へ」をクリックしてください。

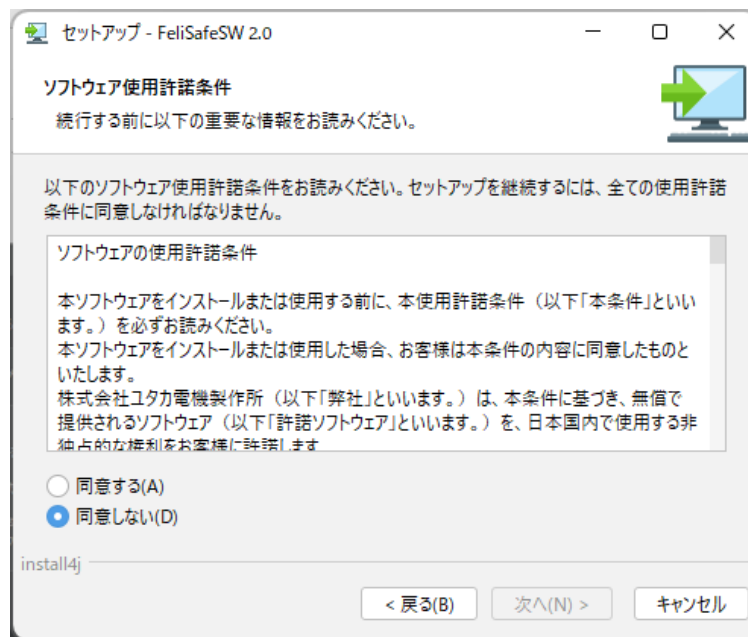


② ソフトウェア使用許諾条件の確認

次に、ソフトウェア使用許諾条件の確認画面が表示されます。

内容をご確認いただき、同意できる場合は「同意する」を選択して、「次へ」をクリックしてインストールを続行してください。

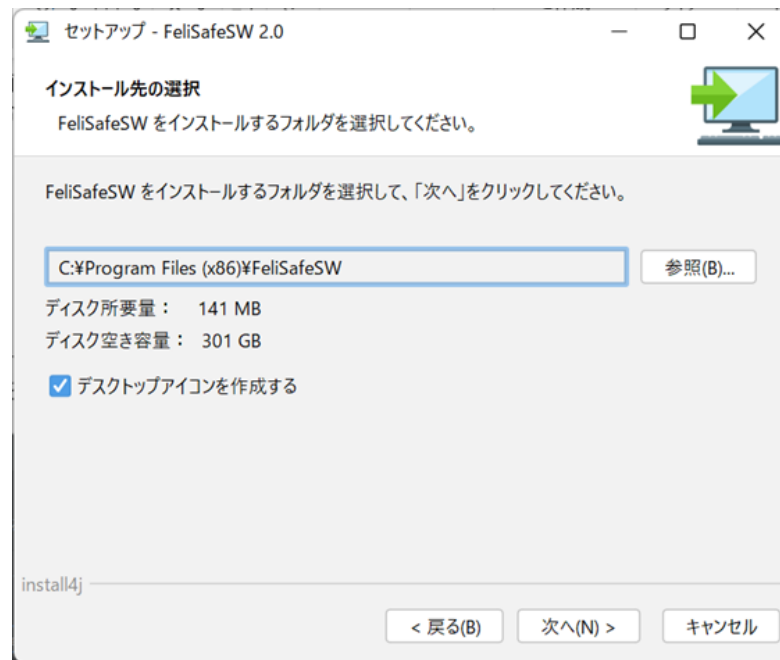
同意できない場合は「キャンセル」をクリックしてインストールを中止してください。



③インストール場所の指定

インストール先フォルダが表示されます。必要に応じてインストール先を変更してください。
デスクトップにショートカットを作成する場合は、「デスクトップアイコンを作成する」にチェックを入れてください。

「次へ」をクリックするとインストールを開始し、ファイルのコピーが行われます。
インストール中に「キャンセル」ボタンをクリックすると処理を中断できますが、不要なファイルなどが残る場合があります。特に必要のない場合は中断を行わないでください。



④インストールの終了

下記画面が表示されたら、FeliSafe SW のインストールは完了です。



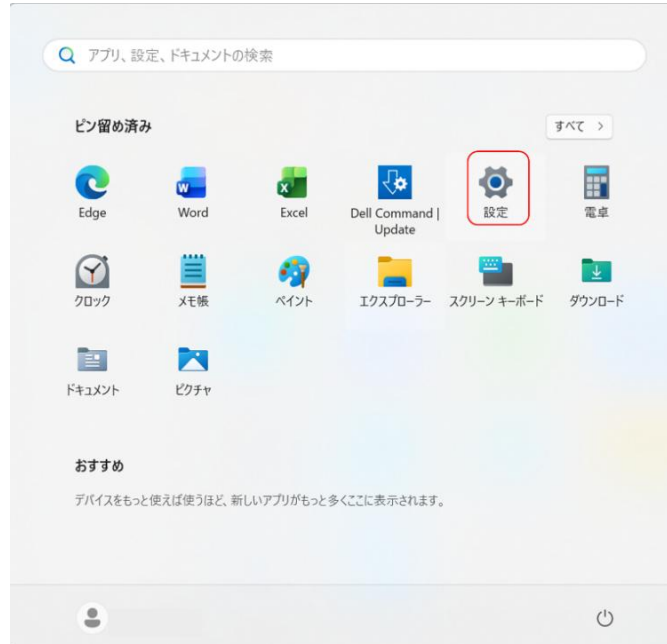
3.2. プログラムの削除（アンインストール）

プログラムの削除を行う際は管理者権限で行ってください。

①画面左下の Windows スタートメニューボタンをクリックします。



②スタートメニューが表示されるので「設定」を選択します。



③「設定」→「アプリ」→「インストールされているアプリ」を選択します。



④アプリ一覧から、FeliSafe SW の右端の「・・・」をクリックし、「アンインストール」を選択します。

画面の指示に従ってアンインストールを完了してください。

アンインストール後は再起動してください。

※アンインストール後、関連ファイルが残る場合があります。

完全に削除したい場合は、残存フォルダを手動で削除してください。



4. ファイアウォールの設定

<<2.3. FeliSafe VP のリモートシャットダウン機能>>で説明したとおり、FeliSafe SW は、セカンダリ側のソフトウェアとして動作します。

FeliSafe VP から FeliSafe SW にアクセスするためには、セカンダリ側のファイアウォールの受信規則の設定が必要です。

本章では、Windows Defender ファイアウォールの設定について説明します。

4.1. ファイアウォールの受信規則の作成

以下にファイアウォールの受信規則を作成する手順を説明します。

まず、TCP の受信規則を作成し、その後同様の手順で UDP の受信規則を作成します。

TCP/UDP とともに、受信規則でローカルポート「31234」を許可します。

ここでのローカルポートは、セカンダリ側のコンピュータのポート番号を指し、FeliSafe VP からの接続を受け付けるための設定です。

(1) 検索ボックスに「ファイアウォール」と入力します。



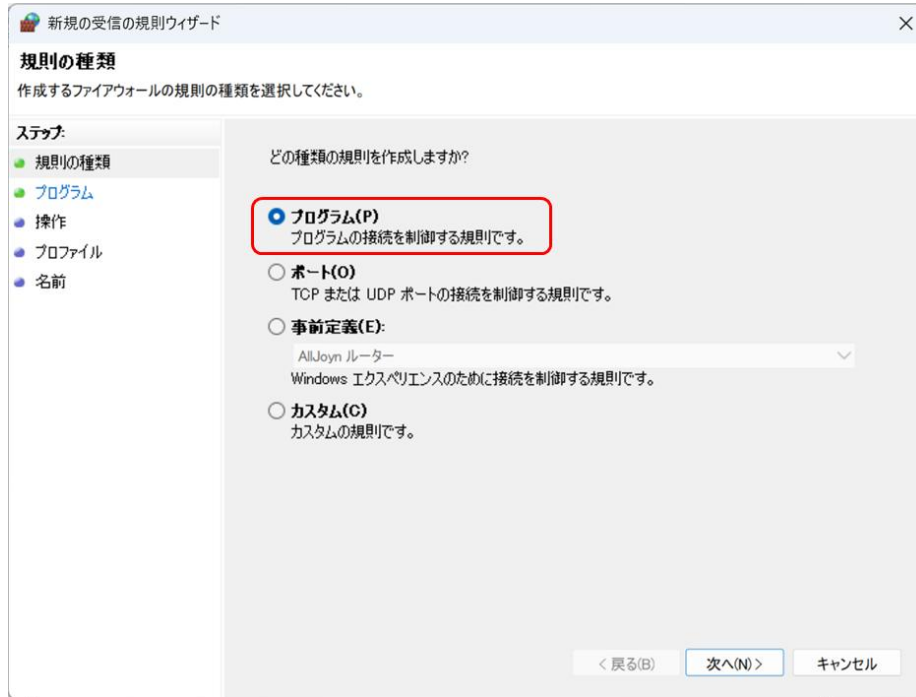
(2) 検索結果から、「セキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォール」をクリックします。



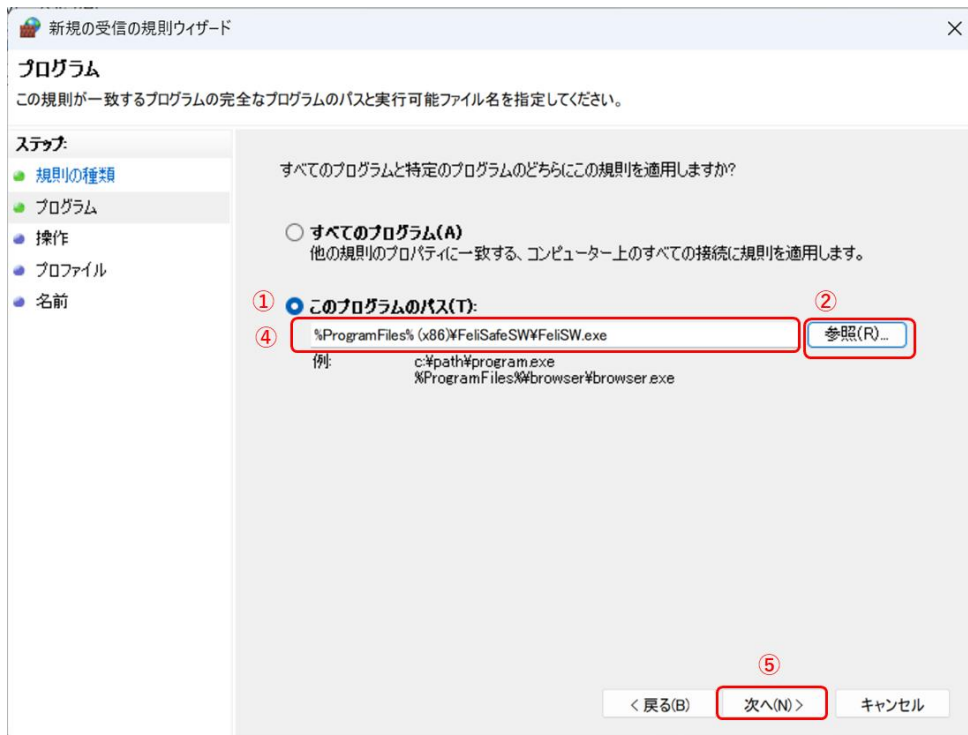
(3) 「セキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォール」画面が表示されます。左のメニューで「受信の規則」を選択し、右のメニューで「新しい規則」をクリックします。



- (4) 「新規の受信の規則ウィザード」の「規則の種類」画面が表示されます。
規則の種類は「プログラム」を選択し、「次へ」をクリックします。



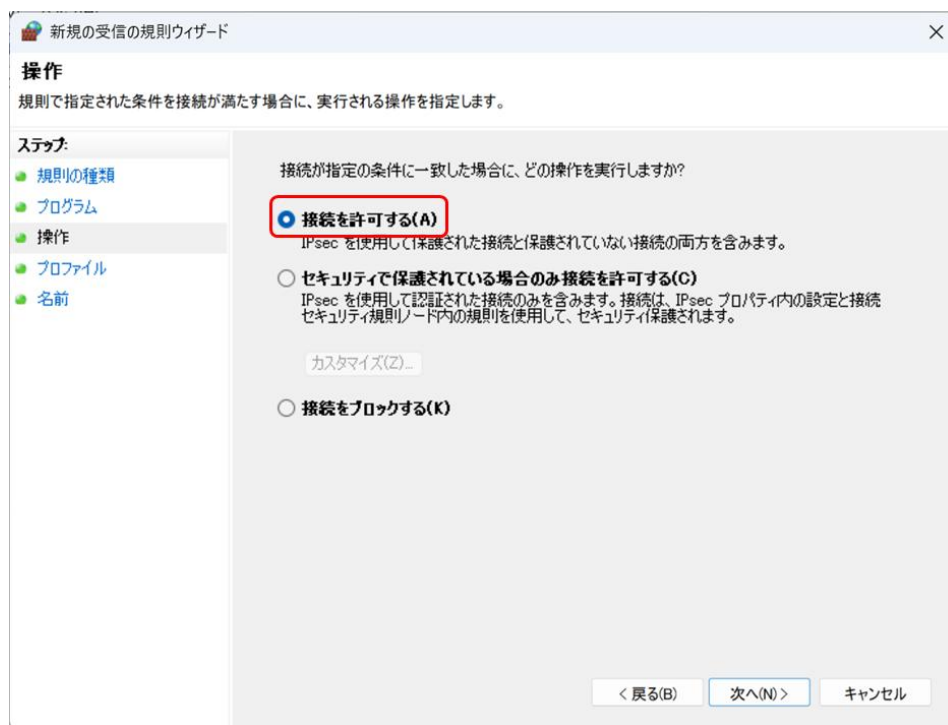
- (5) 「新規の受信の規則ウィザード」の「プログラム」画面が表示されます。
- ① 「このプログラムのパス」を選択します。
 - ② 「参照」をクリックすると、ファイルを選択する画面になります。
 - ③ FeliSafe SW がインストールされているフォルダに移動し、フォルダ内のサービスプログラム「FeliSW.exe」を選択します。
 - ④ 「このプログラムのパス」の入力欄に FeliSW.exe のパスが表示されていることを確認してください。
 - ⑤ 「次へ」をクリックします。



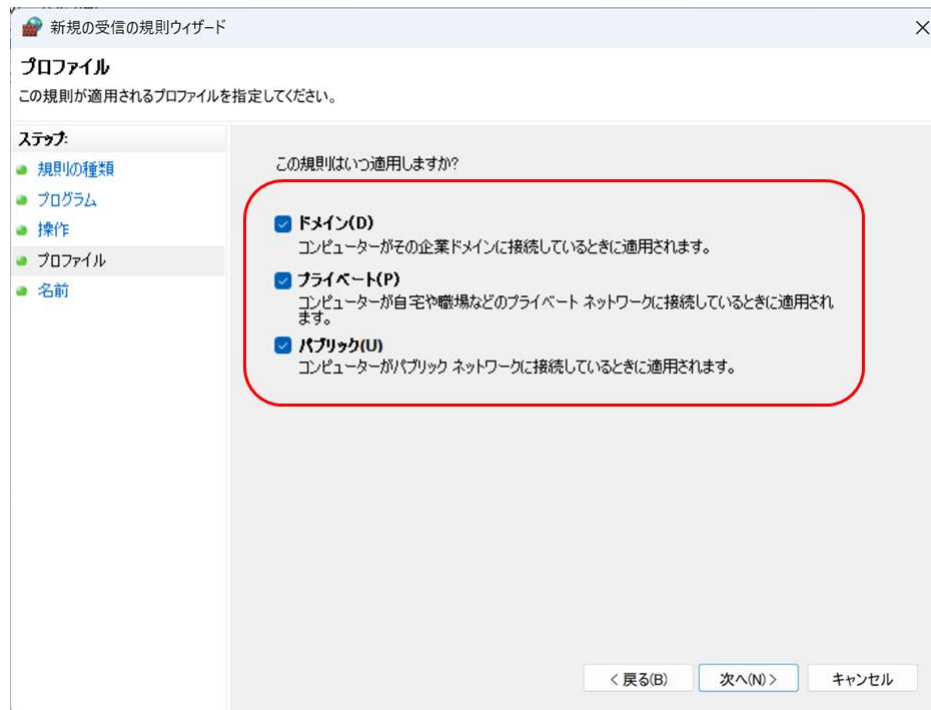
> PC > OS (C:) > Program Files (x86) > FeliSafeSW >

名前	更新日時	種類	サイズ
.install4j	2026/02/09 11:23	ファイル フォルダー	
config	2026/02/09 11:23	ファイル フォルダー	
images	2026/02/09 11:23	ファイル フォルダー	
jre	2026/02/09 11:23	ファイル フォルダー	
lib	2026/02/09 11:23	ファイル フォルダー	
log	2026/02/09 11:23	ファイル フォルダー	
voice	2026/02/09 11:23	ファイル フォルダー	
FeliSafeSW.exe	2025/11/11 21:09	アプリケーション	254 KB
3 FeliSW.exe	2025/11/11 21:09	アプリケーション	259 KB
uninstall.exe	2025/11/11 21:09	アプリケーション	698 KB
uninstall_bak.exe	2025/11/11 21:09	アプリケーション	724 KB

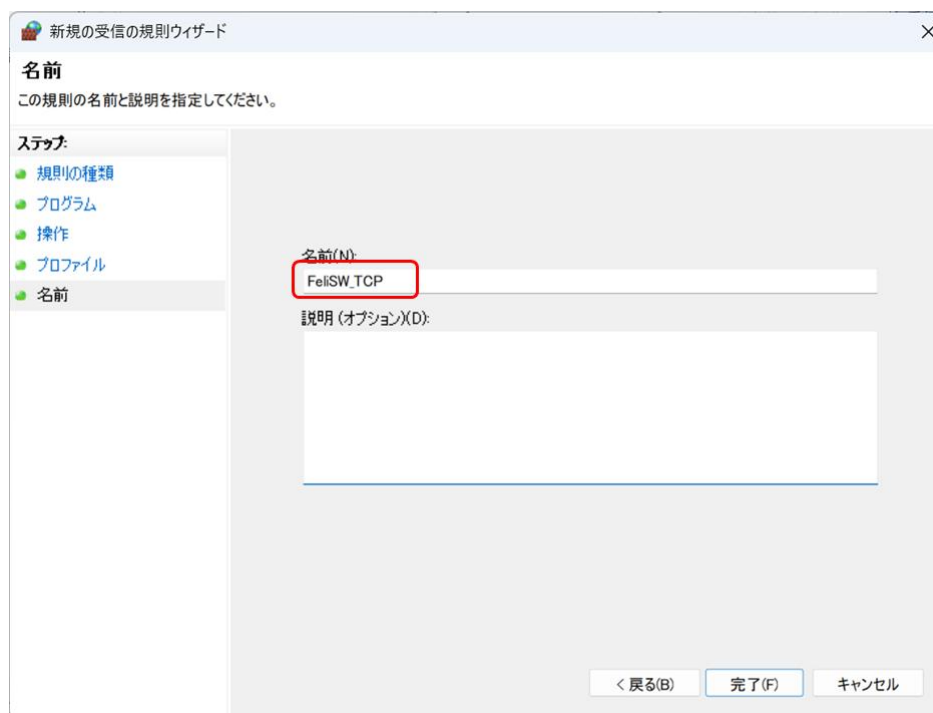
(6) 「新規の受信の規則ウィザード」の「操作」画面が表示されます。
「接続を許可する」を選択し、「次へ」をクリックします。



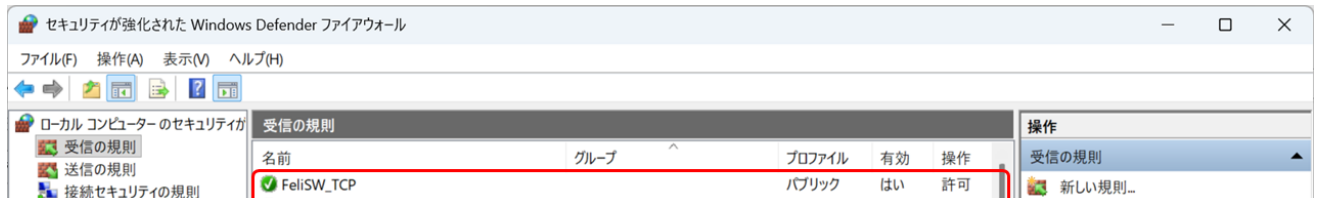
- (7) 「新規の受信の規則ウィザード」の「プロファイル」画面が表示されます。
接続先のネットワークに応じてプロファイル（ドメイン、プライベート、パブリック）を選択し、「次へ」をクリックしてください。
- ※Windows 以外のファイアウォールソフトをご使用の場合は FeliSafe SW への通信がブロックされることがあります。また、ウイルス対策ソフトによってはファイアウォール機能を持っているものもございます。この場合も FeliSafe SW への通信がブロックされることがあります。
ファイアウォールソフトやウイルス対策ソフトをご使用の場合は手動で FeliSafe SW のサービスプログラムを例外や許可プログラムに登録してください。
- 許可が必要なプログラムは下記になります。
C:¥Program Files (x86)¥FeliSafeSW¥FeliSW.exe



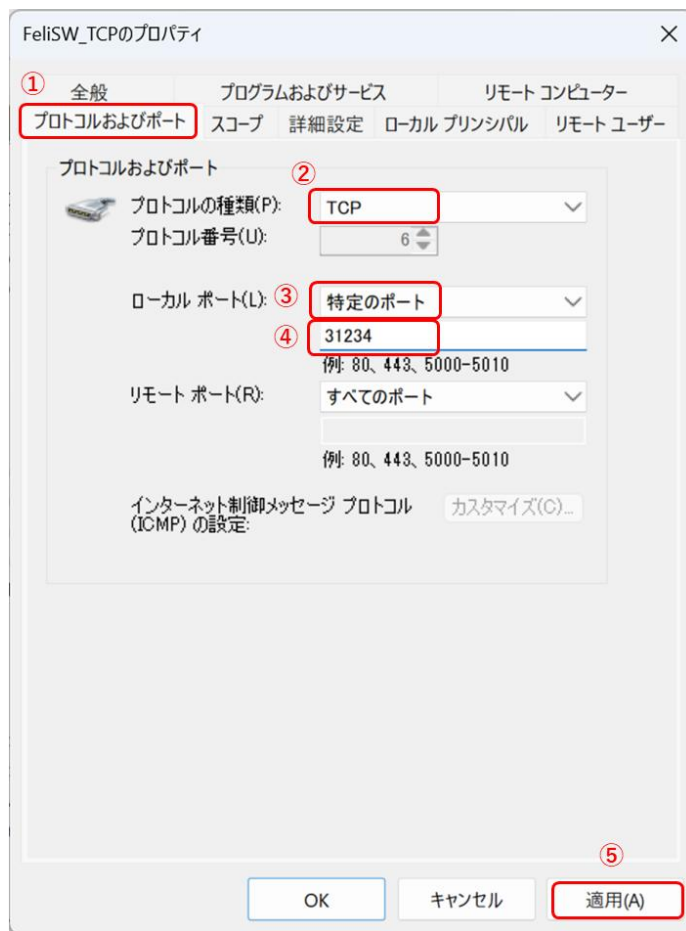
- (8) 「新規の受信の規則ウィザード」の「名前」画面が表示されます。
ルール名に「FeliSW_TCP」など分かりやすい名前を入力し、「完了」をクリックしてください。



- (9) ファイアウォールの受信規則に新たに規則が追加されます。
追加された規則「FeliSW_TCP」をダブルクリックします。

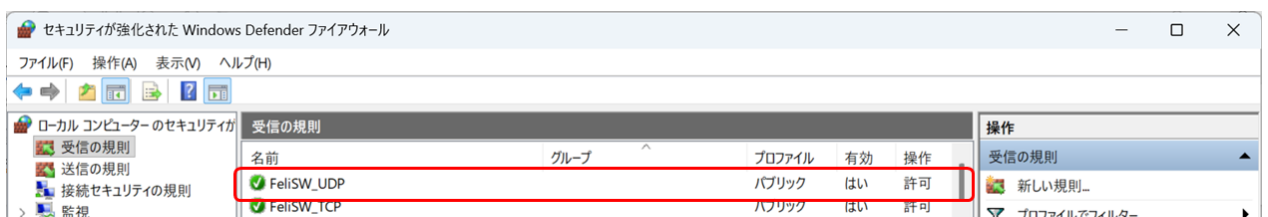


- (10) 「FeliSW_TCP」のプロパティが表示されます。
① タブ「プロトコルおよびポート」を選択します。
② プロトコルの種類に「TCP」を選択します。
③ ローカルポートに「特定のポート」を選択します。
④ ポート番号を「31234」と入力します。
⑤ 「適用」をクリックします。



以上で、受信規則「FeliSW_TCP」の設定は完了です。

- (11) UDP の受信規則についても、同様に(1)～(10)の手順で作成してください。
UDP もローカルポート 31234 を指定します。



5. サービスプログラムの起動/停止/再起動方法

FeliSafe SW のUPS 監視機能はサービスプログラムとして動作します。

そのため、通常はコンピュータ起動時に自動的に開始され、手動で起動/停止を行う必要はありません。

ただし、以下のような場合はサービスの停止/開始/再起動を行ってください。

- サービスプログラムが正常に起動しない
- 動作が不安定となる

また、サービスプログラムが停止している場合、FeliSafe SW を「管理者として実行」で起動すると、サービスプログラムが自動的に開始されます。

詳細は<<9.1 FeliSafe SW を「管理者として実行」する方法>>を参照してください。

【注意】

サービスプログラムを停止すると、停電時にシャットダウン処理が実行されなくなります。

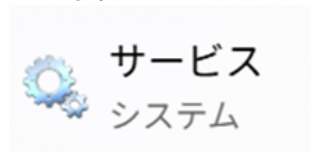
手動でサービスプログラムを操作する場合は、以下の手順を管理者権限で実行してください。

5.1. Windows の「サービス」から起動/停止/再起動する方法

①検索ボックスに「サービス」と入力します。



②検索結果から、「サービス」をクリックします。



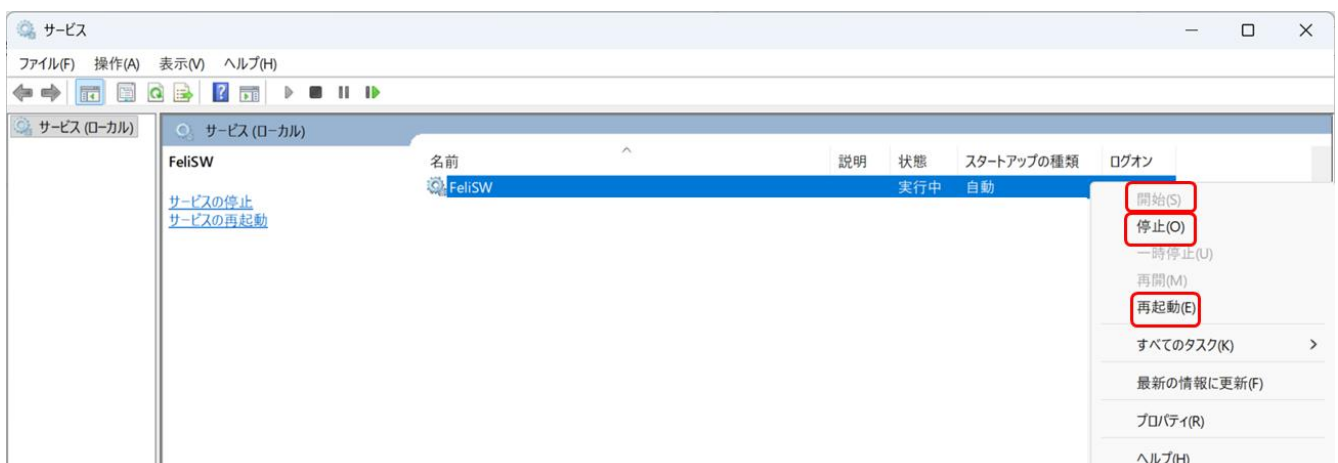
③一覧から「FeliSW」を探します。

「FeliSW」を右クリックし、目的の操作を選択します。

開始：サービスプログラムを起動します（状態が「実行中」になります）

停止：サービスプログラムを停止します

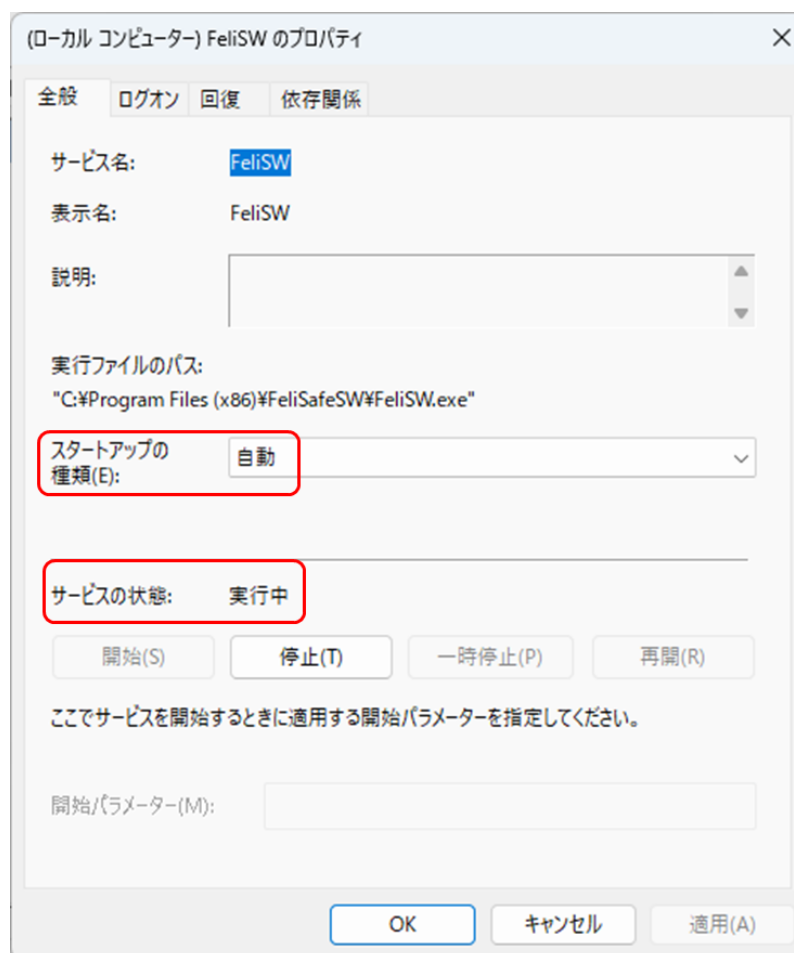
再起動：サービスプログラムを再起動します（動作が不安定な場合に有効です）



5.2. 自動起動（スタートアップの種類）を確認／変更する方法

サービスプログラムが自動的に開始されない場合は、スタートアップの種類が「自動」になっているか確認してください。

- ①対象サービス（例：FeliSW）を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- ②「スタートアップの種類」が「自動」以外の場合は、「自動」に変更します。
- ③サービスプログラムの状態に応じて、必要な操作を行います。
状態が「実行中」の場合：[停止] をクリックして停止できます
状態が「停止」の場合：[開始] をクリックして起動できます
- ④設定変更後、[OK] をクリックします。



6. FeliSafe SW の説明

6.1. FeliSafe SW の起動、表示、終了

本節では、FeliSafe SW の起動方法、設定画面の表示、および終了方法を説明します。

6.1.1. FeliSafe SW の起動

本項では、FeliSafe SW を管理者権限で起動し、タスクトレイに表示させる方法を説明します。

- ①Windows の「スタート」メニューから「FeliSafe SW」を選択し、「管理者として実行」をクリックしてください。

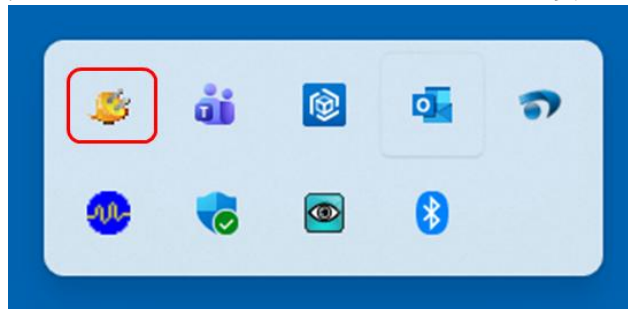


※初回起動時に、「Windows Defender ファイアウォール」の警告画面が表示されますので「許可」をクリックしてください。

警告画面の例

「パブリックネットワークとプライベートネットワークにこのアプリへのアクセスを許可しますか？」
アプリ名：felisafesw

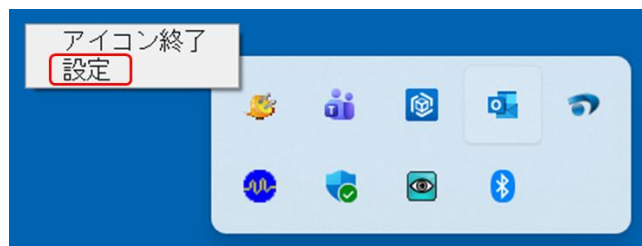
- ②FeliSafe SW が起動すると、タスクトレイに FeliSafe SW のアイコンが表示されます。



6.1.2. FeliSafe SW 設定画面の表示

本項では、FeliSafe SW の設定画面を表示する方法を説明します。

タスクトレイの FeliSafe SW のアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「設定」を選択します。



FeliSafe SW の設定画面が表示されます。
画面の説明については、《6.2. FeliSafe SW の設定》を参照してください。

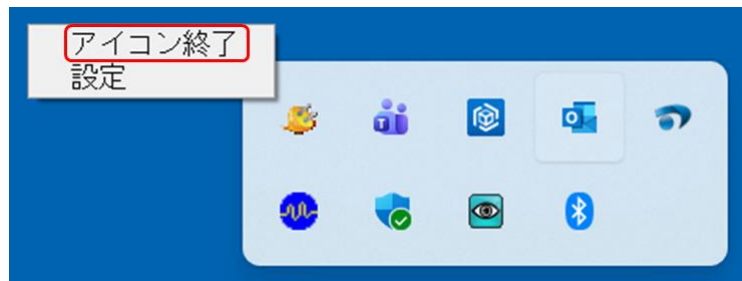
リモート元IPアドレス	パスワード
127.0.0.1	*****

6.1.3. FeliSafe SW の終了

本項では、FeliSafe SW を停止する方法を説明します。

タスクトレイの FeliSafe SW のアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「アイコン終了」を選択してください。

※FeliSafe SW を終了すると、サービスプログラムも停止するため、シャットダウン処理が実行されなくなります。



6.2. FeliSafe SW の設定

6.2.1. 設定画面の説明と設定方法

本項では、FeliSafe SW の設定方法を説明します。

■初期画面

下記の通りになります。

リモート元IPアドレス	パスワード
127.0.0.1	*****

■リモートシャットダウンを実行する

【動作】

- チェックありの場合
リモートシャットダウンが実行されます。
- チェックなしの場合
リモートシャットダウンは実行されません。

■リモート元 IP アドレス、パスワード

リモート元の IP アドレスとパスワードを設定します。

【リモート元 IP アドレス】

FeliSafe VP がインストールされているコンピュータの IP アドレスを入力してください。

【パスワード】

FeliSafe VP の「リモートシャットダウン通知設定」で設定したパスワードを入力してください。

【補足】 FeliSafe VP 側の設定は、《FeliSafe VP ユーザーズマニュアル》を参照してください。

■「Add」ボタン

入力した「リモート元 IP アドレス」および「パスワード」を一覧に追加します。

■「Del」ボタン

リモート元 IP アドレス一覧にある IP アドレスを選択し、「Del」ボタンをクリックすることで、削除できます。

■リモート元 IP アドレス一覧

リモート元 IP アドレスが表示されます。

■OS シャットダウン前のファイル実行時間

FeliSafe VP からシャットダウン通知を受信してからコンピュータがシャットダウン処理に入るまでの時間です。

この時間間にファイルを実行してください。

【チェックボックス】

- チェックありの場合
指定時間後にコンピュータのシャットダウンが実行されます。

- ・チェックなしの場合

シャットダウン通知を受信してすぐに、コンピュータのシャットダウンが実行されます。

【時間設定】

初期値：10 秒

上限は、FeliSafe VP シャットダウン設定のディレイ 3 で設定した時間より短くしてください。

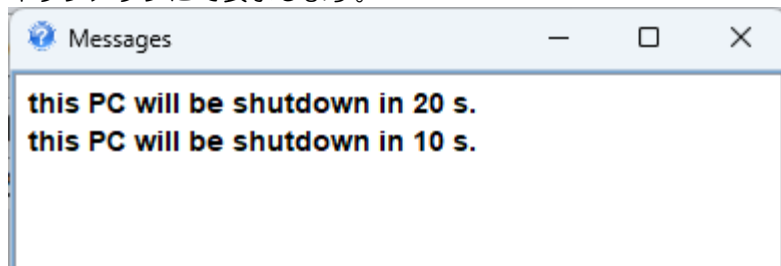
UPS が出力停止する前にファイル実行が終了するように時間を設定してください。

■実行ファイル名

リモートシャットダウン前にファイルを実行する場合、ファイルパスを入力してください。

■OS シャットダウン前のポップアップダイアログ表示

FeliSafe VP からシャットダウン通知を受信してからコンピュータがシャットダウン処理に入るまでの時間をポップアップにて表示します。



【チェックボックス】

- ・チェックありの場合
ポップアップ表示されます。
- ・チェックなしの場合
ポップアップ表示されません。

■「適用」ボタン

「適用」ボタンを押さないと設定値が反映されません。

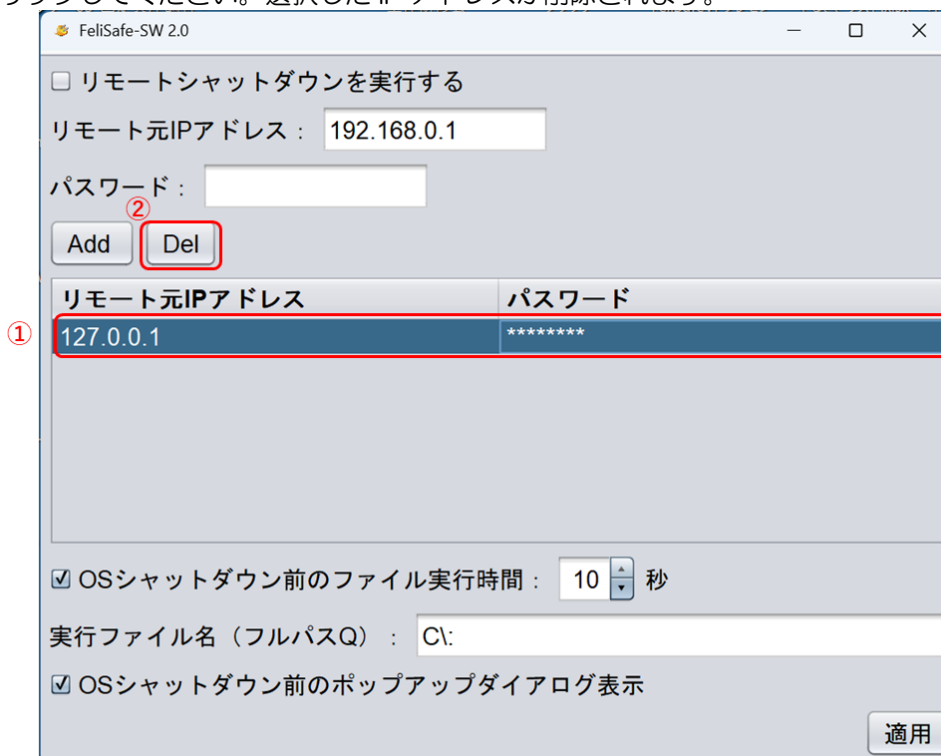
設定変更後は必ず「適用」ボタンをクリックしてください。

■設定例

①初期画面にある IP アドレスは、使用しません。そのため、削除します。

「127.0.0.1」を選択すると色が変わります。

②「Del」をクリックしてください。選択した IP アドレスが削除されます。



- ③リモートシャットダウンを実行するため、チェックを入れてください。
- ④FeliSafe VP がインストールされているコンピュータの IP アドレスを入力します。
ここでは、IP アドレスを 192.168.0.20 としパスワードを入力します。
- ⑤「Add」をクリックしてください。
- ⑥入力したリモート元 IP アドレス、パスワードに追加されます。
- ⑦OS シャットダウン前のファイル実行時間を 20 秒に設定します。
チェックは入れたままにします。
- ⑧実行ファイルを入力します。
- ⑨OS シャットダウン前のポップアップダイアログ表示のチェックは入れたままにします。
- ⑩「適用」をクリックします。

The screenshot shows the 'FeliSafe-SW 2.0' configuration window. The interface includes a list of remote shutdown settings, a table for IP addresses and passwords, a file execution time setting, and an execution file name field. Red boxes and numbers 3 through 10 highlight the following elements:

- ③: Checkmark for 'リモートシャットダウンを実行する' (Execute remote shutdown).
- ④: Input fields for 'リモート元IPアドレス' (Remote source IP address) set to '192.168.0.20' and 'パスワード' (Password) set to '***'.
- ⑤: 'Add' button.
- ⑥: Table with columns 'リモート元IPアドレス' and 'パスワード'. The first row contains '192.168.0.20' and '*****'.
- ⑦: Checkmark for 'OSシャットダウン前のファイル実行時間' (File execution time before OS shutdown) set to '20' seconds.
- ⑧: '実行ファイル名 (フルパスQ)' (Execution file name (full path Q)) set to 'C:\Work\FeliSafeVP\feli-date_note.bat'.
- ⑨: Checkmark for 'OSシャットダウン前のポップアップダイアログ表示' (Display pop-up dialog before OS shutdown).
- ⑩: '適用' (Apply) button.

リモート元IPアドレス	パスワード
192.168.0.20	*****

7. コンピュータのシャットダウン動作について

7.1. FeliSafe SW によるコンピュータのシャットダウン

FeliSafe SW の機能によるシャットダウンの動作は、通常コンピュータのシャットダウンとは異なり、動作中のプログラムの終了を待たずに強制的にシャットダウンを行います。
シャットダウンになる前に、速やかに動作中のプログラムを終了し、保存していないデータを保存してください。

8. ご利用いただく際の注意点—必ずお読みください

8.1. UPS の電源供給に連動し、コンピュータを起動させるには

UPS が出力を開始しても、コンピュータが自動的に起動しない場合があります。その場合は、コンピュータ側の設定が必要です。

コンピュータについては「9.2 UPS の出力開始でコンピュータを起動する方法」を参照してください。

コンピュータ以外の装置については、装置のメーカーにご確認ください。

9. 付録

9.1. FeliSafe SW を「管理者として実行」する方法

FeliSafe SW を管理者権限で実行すると、サービスプログラムが停止している場合でも、サービスプログラムを起動することができます。

■FeliSafe SW を一時的に「管理者として実行」する方法

Windows のスタートメニューで、一覧から「FeliSafe SW」を右クリックすると、下記のようなメニューが表示されます。

表示されたメニューから「管理者として実行」をクリックします。

管理者として実行する場合、通常こちらをご使用ください。



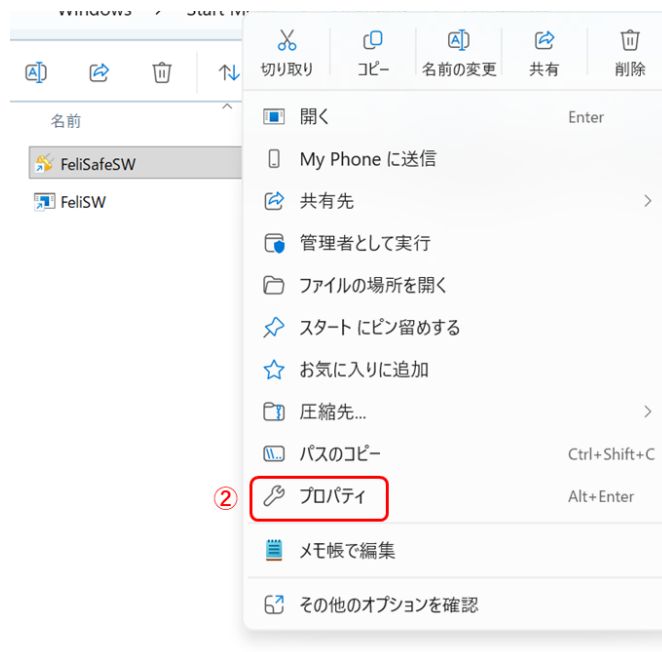
■FeliSafe SW を常に「管理者として実行」する方法

上項と同様に「FeliSafe SW」を右クリックし、メニューを開きます。

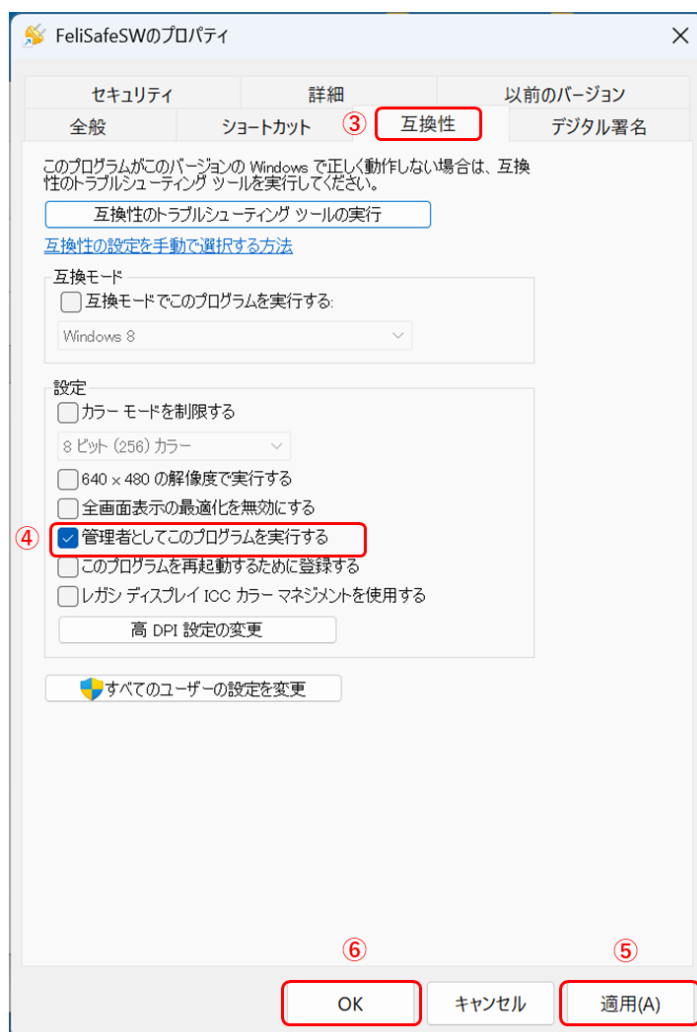
①メニューの「ファイルの場所を開く」をクリックします。



- ② 「ファイルの場所を開く」をクリックすると FeliSafe SW のショートカットアイコンがあるフォルダに移動します。FeliSafe SW のアイコンを右クリックして「プロパティ」をクリックします。



- ③ 「プロパティ」を表示し、「互換性」のタブを開くと下記画面が表示されます。
④ 「管理者としてこのプログラムを実行する」にチェックを入れます。
⑤ 「適用」ボタンをクリックします。
⑥ 「OK」ボタンをクリックします。



以降、スタートメニューから「FeliSafe SW」を通常起動しても「管理者として実行」されます。ただし、常に「管理者」として起動するため、起動時に Windows の「ユーザーアカウント制御」が表示されます。通常は、上記の「一時的に管理者として実行」する方法をご利用ください。



9.2. UPS の出力開始でコンピュータを起動する方法

UPS が停電復旧、スケジュール、操作などにより AC 出力を開始した際、これに連動して UPS から電源供給されている装置が起動します。

ただし、コンピュータによっては BIOS (UEFI) の起動条件 (Boot 条件) の変更が必要な場合があります。以下に設定例を示します。

なお、BIOS (UEFI) への入り方や設定項目は、メーカー/機種/マザーボードにより異なります。詳細はコンピュータまたはマザーボードのマニュアルを参照するか、メーカーへお問い合わせください。弊社ではお問い合わせにお答えいたしかねます。

■BIOS (UEFI) の設定例

コンピュータが UPS の出力開始に連動して起動しない場合、BIOS (UEFI) の電源復帰時の動作設定が必要なことがあります。

以下に設定例を示します。

■BIOS (UEFI) を起動する

PC の起動中に特定のキーを押して BIOS (UEFI) を起動します。

押すキーは PC メーカーや機種により異なります。

(例: Delete / F2 / F10 / F12 / Esc など)

正しく認識されると、BIOS (UEFI) メニューが表示されます。

■設定項目 (例)

BIOS (UEFI) 内で、停電復旧 (電源復帰) 時に「自動的に電源を入れる (Power On)」設定を探し、設定します。

項目名やメニュー名はメーカーにより異なります。

BIOS 例

- 「Boot Options」メニュー
「After Power Loss」: Power On

■設定の保存と再起動

設定を変更したら保存して PC を再起動します。

BIOS (UEFI) メニューの「Save Changes and Exit」等を選択してください。

設定が保存され、PC が再起動します。

【注意】

装置によっては、UPS が出力を開始しても起動しない場合があります。

その場合は装置メーカーにご確認ください。

